

上海自由貿易試験区の構築および中国の対外開放のアップグレード

中国（上海）の自由貿易試験区の構築は中国政府の対外開放における戦略的なアップグレードを実現するための重要なステップとなる。このイニシアチブの目的は、経済のグローバル化の新たなトレンドの適応、高い国際基準に基づいたオープンな経済システムの構築、国際競争の中で新たな利点の育成、各国との協力のための新しいプラットフォームの構築などを通じ、経済成長度を上げ、貿易の開放度をアップグレードすることである。

上海における自由貿易試験区構築の具体的措置は以下の通りである。1、政府機能の転換を加速すること、2、さらなる投資分野を開拓すること、3、貿易の開発モードの転換を促進すること、4、金融セクターにおけるオープンイノベーションを深めること、5、法的整備による保護システムを構築することである。

TPPを促進するためには、革新的なサービスモデルチェンジに焦点を当てると共に、新たな租税政策の模索を行う。総的に言えば、上海の自由貿易試験区は、将来的には全国においてより高いレベルの貿易開放策の確立、全国範囲で実行可能な貿易モデルを確立することに役に立ち、この点は従来の経済特区と異なる点である。

具体的には、中国はアメリカとの投資協定に定めた内容に従い、投資活動の各段階に対し、内国民待遇を付与し、中国は規制する産業だけを列挙、ほかは原則として自由参入を認める「ネガティブ・リスト」方式を採用する。それと同時に、外資に関する規制策および政府の承認制度に関する改革策の模索も始まっている。

機能的には、上海自由貿易試験区は投資における開放度をあげることを重視している。従来の自由貿易地域における関税撤廃によって物品貿易を促進するような限定的なものではなく、外資誘致及び対外投資も含める投資分野の拡大に力を入れている。また、単に製造業の発展を継続するよりも、サービス業の開発を重視している。更に、上海の貿易、輸送および多国籍企業本部機能の構築に重点を置いており、単なる物品貿易の拡大ではない。貿易、投資における単純な開放ではなく、開放による強制改革を狙い、単純に海外直接投資の導入に焦点を当てるのではなく、金融セクターにおける全面的イノベーションの実現を目的にしている。

従って、上海における自由貿易試験区の構築は中国改革開放政策の今後の戦略的方向性を反映していることに違いない。